

第7回高萩市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会の開催結果

- 1 日 時 令和5年10月23日（月）午後2時～午後3時10分
- 2 場 所 高萩市役所4階 大会議室
- 3 出席委員 11名
加藤崇英委員長、國井春美副委員長、稲野邊親委員、大谷勝一委員、
岡部晃美委員、今橋優子委員、綿引このみ委員、小室博子委員、
坪栄樹委員、齊藤えり奈委員、大武時男委員
- 4 欠席委員 5名
大足光司委員、神代みゆき委員、今川敏宏委員、
徳永彩香委員、田邊主計委員
- 5 出席職員 大森壮一教育部長、和田真一学校教育課課長、
小森日路子教育総務課長、豊田長教育総務課課長補佐
- 6 内 容 議題
(1) 学校適正規模化のため対応策の検討
- 7 配布資料
資料1 学校施設再編パターンの検討
資料2 高萩市立小中学校適正規模・適正配置実施計画（案）

8 会議の概要

前回の検討委員会に引き続き実施計画（案）の検討を行った。前回、事務局が提案した実施計画（案）では、高萩中学校学区の小中学校を統合し新たに義務教育学校を設立し、秋山中学校区及び松岡中学校区は既存の施設を使い施設分離型の小中一貫教育を導入する案であったが、複数の委員より最初から市内の小中学校を1つに集約することや、秋山地区及び松岡地区においても施設一体型の小中一貫教育を行うことの提案があった。今回は、これらの提案について、児童生徒数の将来見込や学校施設の状況等を示した資料を用いて意見交換等を行った。

以下、委員からの主な意見等

- ・市内の統合を一度に行ってしまうと児童生徒数の減少の見込みから、過大な学校をつくってしまう。高小・東小・高中を統合した学校をつくり、児童生徒数の状況をみながら、減少に応じて統合するほうがよい。

- ・統合することによって通学距離が増える児童生徒が生じる。学校の場所がどこになるのが気になる。
- ・事務局案で作った学校に、作ったのはいいが、学校が小さく入れないことが無いようにすべき。児童生徒の通学を考えると自転車で高台への移動が大変である。そういうことも考慮した学校の場所を検討すべき。
- ・市内を急な統合により1校にすることは、保護者が不安に感じる。事務局案のように段階的に統合する方法が理解が得られるかと思う。
- ・市内の道路は現在も自転車通学に適していない場所が多い。道が狭く危険な場所があると感じる。徒歩でも同様である。通学路を整備をしていただくと安心である。
- ・小中施設を統合した場合、小学1年生などが、中学校に通うことに適応できるか心配である。また、通学路が変更になることを早めに案内していただくと安心である。
- ・緊急時の児童の引き渡しの際、現在の学校は駐車場や進入路が狭く、込み合うことがある。統合時には、そういったことも併せて検討してほしい。
- ・統合する場合、施設が充実している高萩中学校を使わなくなることは、津波のことを考えると致し方ない。新しい学校を作るとその周辺の道路の整備が後手になることがある。通学路の整備も、道路管理者との連携を密にし、併せて実施してほしい。
- ・松岡小学校が先般の洪水で浸水した。松岡小を引続き使う事に不安を感じる。秋山地区の学校との統合や新しく作る学校と早く統合できないかと考える。